

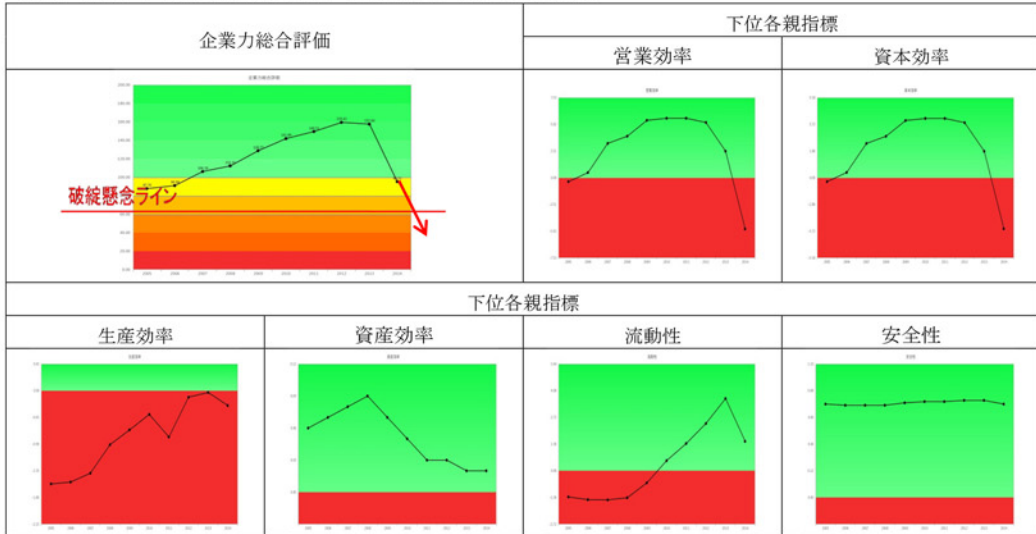


経営分析ニュース

第114号
2015年5月20日発行
毎月20日発行

今回は、日本マクドナルドホールディングス株式会社を分析しました。2014年夏の使用期限切れ鶏肉問題や2015年の異物混入問題で厳しい経営状況とされています。

2005～2014年12月期までの10年間を分析してみました。



企業力総合評価は、8年間積み上げてきた企業力が、一瞬にして消し去られたことを示しています。まるでジェットコースターのよう。この先、同じトレンドで推移すれば、あと1年で破綻懸念領域に入ります。これは大ピンチです。

営業効率（儲かるか）、資本効率（株主評価）は、天井値から底値へ急激に悪化しました。

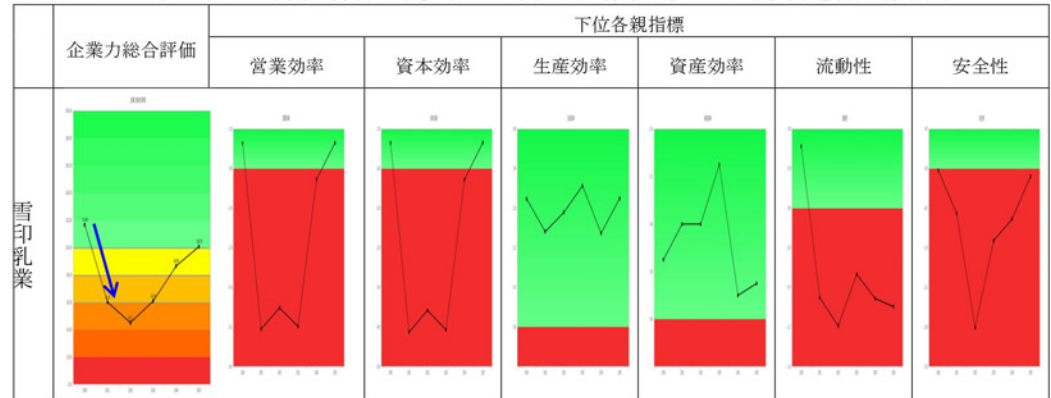
生産効率（人の利用度）は、右肩上がりです。以前から直営店をF C店に変えていく動きを進めてきました。人手のいる直営店が減り、従業員数が減りました。売上は、F C店への物販が増え、直営店の売上が減り、相殺すると減収トレンド（2009年以降）になりましたが、減収より、従業員数減少が強いので、生産効率は改善しました。

資産効率（資産の利用度）は、減収が響いたため悪化トレンドです。
流動性（短期資金繰り）は改善トレンド、安全性（長期資金繰り）は、ほぼ天井値です。

マクドナルドHD株は4月16日にビジネスリカバリープランを発表しました。2015年度の予定決算では、売上高200,000百万円、営業損失25,000百万円、経常損失31,000百万円、当期損失38,000百万円、22,000百万円の借入金増加を見込んでいます。この計画は妥当でしょうか。

比較のため、過去に食品不祥事を起こした雪印乳業株式会社を見てみましょう。マクドナルドHD株と同じく続けざまに2回、食中毒問題と牛肉偽装問題がありました。

2000～2005年までの6年間の分析です。（2000年個別財務諸表、2001年以降連結財務諸表）



まず、悪化した時の状況を見ます。2001年は57ポイント下落し、悪化成り行き倍率1年。営業効率・資本効率も底値で、マクドナルドHD株と同じ危機レベルです。生産効率は、業種の特徴で雪印乳業株が良い評価です。流動性・安全性の財務体質は、マクドナルドHD株が圧倒的に良いです。

では、改善の状況はどうでしょう。雪印乳業の2001年と2005年の数字は下表の通り。売上を1/4、総資産を1/3、従業員数を1/5にし、この大リストラが功を奏し売上高経常利益率は7.53%改善しV字回復を達成しました。

	2001年	2005年	対2001年比
売上高(百万円)	1,140,763	283,403	24.84%
総資産額(百万円)	567,913	213,832	37.65%
従業員数(人)	23,375	5,152	22.04%
売上高経常利益率	-5.17%	2.36%	7.53%の改善

一方のマクドナルドHD株はどうでしょうか。ビジネスリカバリープランの数値を分析してみると（右グラフ）、企業力総合評価は更に悪化して、傾きは緩やかになったものの、いまだ悪化成り行き倍率1年です。このままの経営状況を続ければ、あと1年で破綻懸念へ行くので対策が急務、という警告が出ているのです。このプランで行くと破綻懸念となってしまいます。

ビジネスリカバリープランの数値は下表のようなものです。雪印乳業株と比べて、どうでしょう・・・？

	2014年	2015年	対2014年比
売上高(百万円)	222,319	200,000	89.96%
従業員数(人)	16,469	16,369	99.39%
売上高経常利益率	-3.59%	-15.50%	11.91%悪化

まとめ

危機に直面したときは、まずはその危機のレベルを客観的に把握する。そして対策をたて、その妥当性を検証する。

編集後記 ピンチに直面したときは、まずはそのピンチのレベルを客観的に把握する。これ、基本です。

〒556-0005 大阪市浪速区日本橋4-9-21 SARUKIビル4F 猿木真紀子税理士事務所
Tel. 06-6631-4570 Fax. 06-6631-7970 info@saruki-tax.jp http://www.saruki-tax.jp

2015年はビジネスリカバリーP

